

令和7年度 三学期終業式 20260319

○3学期（1年）の総括

- ・いよいよ年度も終わり。1年間の振り返りと、新しい年への準備。

今日は、全校集会であったアジャストタイムに関することと、今年先生方と話し合ったグランドデザインの話をしたい。

- ・アジャストタイム、自分で、自分のことを考えながら責任をもって選択するということのトレーニングの場である。

- ・なぜ、こんなことをするのかを少し考えたい。

「キーワードは、意欲」である。

- ・あなたは、何かをしたい！と思うときは、どんな時？

- ・（例）自分の経験から。

・学校のカリキュラムは、基本的には、決まり事の中で動いている。国語、数学、理科、教える内容ある程度決まっている。部活動の時間も先生が用意している。

今回のアジャストタイムも基本的には、決まり事の中で動きます。

・しかし、3つの内容（昼寝、探究、読書）をどう選び、何をするかは、決まっていない。自由です。3つしか選択肢はありませんが、したいことをすればよい。ただし、自分で選ぶ。つまり、友だちと話したいとか、そういうことは入っていない。

昼休みは、ごはん食べたり、友達と話したりしてほしい。しかし、このアジャストタイムは、自分で決めることに意味がある。

- ・この学校組織という社会の枠組みの中で、自分自身と対話し、自分で選ぶという

「意欲」に気が付いてほしいというのが導入のねらい。

・2つ目。改めて、校訓の話をする。本校の校訓は、覇気・信念・明朗である。これは、みなさんよく知っているように、本校に脈々と伝わるものである。創始者、望月軍四郎が、「日常生活をするために、大切なことは、明朗な性格であり、職業人としては、一つの堅い信念を持って、実行し、人生意気に感じたならば、仕事を完成させる覇気が大切で、これこそ人間形成の根幹である」と伝えたという教えに基づく。それにそって文武両道を目指して、日常生活を大事にし、勉学、部活動に積極的に取り組むという校風を維持してきた。

・そんな本校も、人口が減る中で、統廃合の波が押し寄せている。選ばれるにはどうしたらよいか。地域として、高校が協力して、明るく、楽しい雰囲気をもっともっと、地域にアピールして、学校というコミュニティをもっと魅力的なものなのだと発信し続けなくてはならない時代だと私は思う。

・これはもともと最も大切なことだった。生徒が、どんな成長を見せてくれるのか、どんな生徒がここで楽しんでいるのかを発信し、表現しなければならなかったのは今に始まったことではない。どんどん改善しなかったのは私たちの責任が重い。

・私たち教職員は、今年、みなさんの様子から、どんな学校、どんな生徒像を目指すのか、話し合ってきた。そして、その生徒像に近づけるために育成したい力（指導のポイント、観点）を5つにまとめた。

○心を律する力

社会の一員として信頼を得るとともに、困難を乗り越えるための心の強さとなる力

○自ら計画し実行する力

描いた目標を着実に実現し、成長のサイクルを回すための力

○協働を築く力

グローバル化や多様性が進む中で、周囲と相乗効果を生み出すための力

○知性を磨く力

変化の激しい社会で、自ら答えを導き出すための土台となる力

○未来を創る力

誰も正解を知らない時代に、自らの意志で道を切り拓くためのエンジンとなる力

・これらは、何かスケールがあって測ることができるわけではない。先生方が日常的にどんな考えで指導していくのかをわかりやすく表現したものである。

・生徒は、学校では、どんな力をつけているのか意識したり、先生の考えを予測したりしてほしいと願っている。

・では、最終的に、覇気、信念、明朗を持った人物とはどんな人物なのだろうか。

わたしは、生徒たちを見て、この学校は、社会に出てから活躍できる人たちになる

だろうと思う。それを、「社会に愛される生徒」という言葉で表現したいと思う。こ

の学校で、学んだ信念は、きっと社会に必要とされると思う。だから、社会に愛さ

れるために、これからも、今を大切に、学校生活を送ってほしい。

さて、最後になるが、

・毎回言います。交通事故、絶対に命を大切にすること。ヘルメットをかぶっていなかったた

めに、命を落とした高校生がいます。私は絶対に防ぎたい

・感謝をすること。座右の銘を大切にすること。

・2年生

・1年生

以上でおわります。